

①駐車場の必要性の検討

●必要台数の算出

施設建物として最低限必要な駐車スペースの確保を行う。
 近くに市駐車場もあり最低限度の必要台数を算出し計画する。
 各階に必要な駐車台数を算出し計画する。

●駐車場算定

1Fホ-ル：600/30人=20台
 2・3F図書館：利用人数大人200人/日÷5人=40台/4重複=10台
 4Fホ-ル・商工会議所：利用者+職員=15台不足は市役所へ
 5・6F福祉施設：10台
 その他の施設利用等：15台
 計約70台必要と算出した。
 ※これ以上の台数が求められるときは市駐車場を利用して頂く。

②駐車場の形式の検討

●地下駐車場方式

・利点：機械式によらないためメンテナンス維持費がかなり縮小できる。

この図は地下1階の平面図を示しています。左側には縦長の駐車スペースがあり、28台の車が並べられています。右側には倉庫、防災機械室、ホール、WC、EV充電設備などが配置されています。エレベーターと階段の位置も示されています。壁には「存置躯体壁」と記載されています。

B1階平面計画

・地下駐車場工事費用の検討
 B1階床面積：1,678.5m²
 地下駐車場工事費：1,678.5m² × 35万 = 5億8747.5万円

●地下掘削の費用が大きく影響する。車路が必要のため大きく面積が必要。地下への階段EV等が必要。

●立体駐車場の検討

・利点：省スペースである。工事費が地下式に比べると安価にできる。

この図は地上1階の平面図を示しています。右側には管理事務所、防災センター、WC、EV充電設備、店舗、玄関ホールなどが配置されています。左側には縦長の駐車スペースがあり、機械式駐車場で34台 × 2 = 68台の車が並べられています。エレベーターと階段の位置も示されています。

1階平面計画

・駐車場工事費の検討
 立体駐車場200万 × 台数 = 工事費
 68台 × 200 = 1億3600万円

●駐車場としては、今回の計画において商業地域であり高さ制限の規制限度まで利用できるとすると立体駐車場の方が安価で有効台数を確保できるので、立体駐車場方式を採用する。